

②千里ニュータウン・暮らしの中のエポック

1960年代（昭和35年～）

歩きはじめたまち

●鉄道開通と長靴

地下鉄御堂筋線に乗り入れる北大阪急行線が開通する昭和45年（1970年）までは、阪急線がニュータウン唯一の鉄道でした。当初は駅までの道路が十分に舗装されていなかったため、雨天時の通勤通学には長靴が必需品でした。駅の行き帰りに使うため多くの長靴が駅構内に置かれていたそうです。

1960年～70年頃の鉄道の状況

◇昭和38年（1963年）

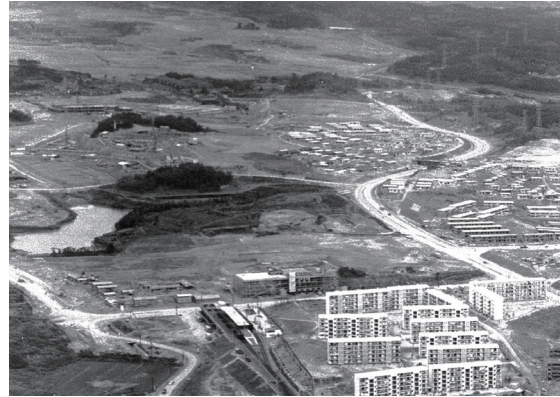
・千里ニュータウン最初の駅新千里山駅（現南千里駅）が完成。千里山駅との間の阪急線が開通し、大阪都心と千里ニュータウンが結ばれた。

◇昭和42年（1967年）

・阪急線が北千里駅まで延伸

◇昭和45年（1970年）

・北大阪急行線が開通し、御堂筋線に乗り入れ。



佐竹台（左写真右下）に続き昭和38年（1963年）に高野台と津雲台で入居開始（右上）。この年に千里ニュータウン初の鉄道駅新千里山駅（現南千里駅）が開業（中央下）



昭和40年（1965年）青山台西側のバス停風景。バスの行き先は新千里山駅。正面に建設中の千里中央公園展望台が見える。



昭和42年（1967年）北千里駅が営業を開始。駅前ロータリー周辺は商業施設の建設を待つ造成地。

1970年代（昭和45年～）

世界と出会い、活気づくまち

●日本万国博覧会（大阪万博）

昭和45年（1970年）に千里ニュータウンの隣で大阪万博が開催されました。ニュータウンの一部の団地が万博の外国人従業員の宿舎になり、通りや公園、近隣センターで草の根の国際交流が生まれました。千里丘陵での万博開催によって、千里ニュータウンの住宅地としての人気が高まりました。

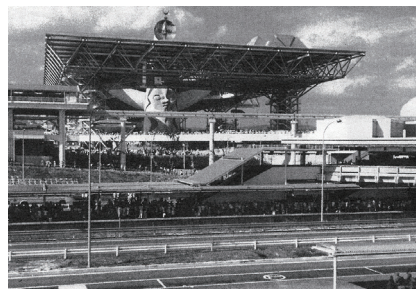


写真-14 観客であふれる万国博中央口駅プラットホームと万博会場連絡橋

●千里インター開通

大阪万博の開催に合わせて千里インターが誕生し、新御堂筋は大阪中央環状線・中国自動車道と結ばれます。これにより、千里中央は大阪の南北の動脈と東西の国土軸が交わる北大阪の「副都心」として発展することになりました。千里ニュータウンは全国に繋がる都市となりました。

●トイレトペーパー騒動

昭和48年（1973年）には原油価格が上昇し、物不足の不安が広がりました。たまたまこの時期に、千里中央のスーパーでのトイレトペーパー大売り出しが報道されたことが、トイレトペーパーがなくなるという噂になって広まり、全国的な騒動に発展。これも千里ニュータウンが全国に知られる出来事でした。



昭和45年（1970年）北千里駅東側を万博会場に向かうタイの象の行列。神戸港から長い道のりを歩いてきた。

1980年代（昭和55年～）

変化していくまち

●府営住宅と公団住宅の増築

府営住宅では、子ども専用の部屋が欲しい等の住宅のレベルアップ要望に応えるために全住戸で1部屋増築または2戸の住戸を1戸にする改修が行われました。また、公団住宅では、一部の住戸で1部屋増築が行われました。このようにして住宅の環境が改善され変化ははじめました。



写真-15 一部屋と浴室が増築された府営住宅



写真-16 増築された部屋は勉強部屋に

1990年代（平成2年～）

都市の機能が充実するまち

●千里サンプラザからせんちゅうパルへ

千里中央のショッピングモール「千里サンプラザ」は、店舗上階の商業者用住宅を店舗に改修したり、一部増築を行ったりして店舗数が増やされ、平成3年（1991年）に「せんちゅうパル」になりました。建物の外観も大きく変わりました。



写真-17・18 千里サンプラザは白い外装パネルのせんちゅうパルにリニューアル



●大阪モノレール開通

平成9年（1997年）大阪空港と門真市間が全線開通。大阪都心を取り囲む地域や大阪国際空港と千里ニュータウンが結ばれ、千里中央駅は、空港利用者の乗り換え駅になりました。



左：写真-19 平成2年（1990年）大阪モノレール千里中央駅オープンセレモニー



右：モノレール千里中央駅にある「モノギャラリー」には、地域のサークルや学校の文化活動の作品が展示されています。

2000年代（平成12年～）

人が集い、交流を育むまち

●コミュニティカフェ誕生

いつでも誰でも利用できる交流の場が欲しいという住民の要望から、平成13年（2001年）に市民運営のコミュニティカフェ「ひがしまち街角広場」が新千里東町近隣センターに生まれました。続いて、佐竹台などにも誕生し、平成22年（2010年）に市民運営の「コラボ交流カフェ」が千里文化センターにオープン。千里ニュータウンは、市民が交流の場を運営するまちに育っています。



ひがしまち街角広場は大人の交流だけではなく、子どもたちが地域の人たちとふれ合う場になっていた。



千里文化センターでは、市民実行委員会によってセミナーやコンサートといった市民交流の場が育まれてきた。